

新宮山彦ぐるーぷ第1917回

行仙宿の巡回整備作業など 「発電機・バッテリー荷上げ、行仙宿水槽貯留、モノレール傍の倒木処理、寄贈間伐材の皮剥ぎ運搬、行仙宿く笠捨山の点検巡視」

◇実施日：2017年03月05日(日) 晴後曇り 気温8〜10℃
◇参加者：川島 功、沖崎吉信、児嶋道夫、生熊敏男、濱野兼吉、

畑林清子、大江加予子、山川治雄・白妙、上村洋司・和美、竹中卓治、瀧本昭太郎、佐藤優美子、斉藤和美。15名。

登山者：佐藤浩司。2月27日行仙宿巡回；梶野照雄。

2月27日；行仙宿巡回

行仙宿へ巡回の際、モノレールに倒木です。終点から約30m下の急斜面。レールをまたいでいた10cm程の倒木枯杉は完全除去。その上の覆いかぶさっていた木は、ノコで切れる枝だけを切つてM機の通過に支障が無いようにしました。太いのでチェーンソーが必要で。雪の重みで折れたようです。その他にもレールに倒れてきそうな木が一本あります。補給路にもかぶさっている木が一本、大きな枯れ木が道を半分塞いでいます。次回はチェーンソーを持って行ってください。(梶野)



枯杉がレール上に



梅の枝レールを妨げ



補給路に枝が被さる

新宮組は沖崎車・児嶋車(1トトラック・川島同乗)で9時に登山口に着くと、尾鷲・熊野市組の山川車(山川夫妻・上村夫妻・竹中氏)、奈良・和歌山組の瀧本車(瀧本・佐藤・斉藤さん)が既着し、登る身支度をされている。

児嶋車に積んできた薪(池郷林道の間伐端材を新宮に持帰り、児嶋氏が薪割機で薪作り)は、転回場のガードレール外側に積み降し、雨除けのトタンを被せる。

モノレールに修復発電機(約35kg)、バッテリー(約16kg)等を積み込み生熊・川島・児嶋氏が同乗して運び上げる。モノレールの支障になる木を確認しながら、梶野氏の切除のお陰で運転に支障無くモノレール終点へ。その他の方は、歩いて登って頂く。

修復発電機に担い棒を括りつけ、前後二人で持ち交代で運び上げる。児嶋氏はバッテリーを荷上げ。

第二ベンチ上の補給路へ被さった木は、山川さんが持参チェーンソーで切除して下さる。



登山口で登る身支度

浦向分岐地点を登る 第二ベンチ・担い棒発電機

笠捨山は、所々白く残雪があるが、佐田ノ辻の尾根には、残雪も無く風も弱く、小屋前の気温は8℃である。

瀧本・佐藤・斉藤さん達は、チェーンソー持参で笠捨山く葛川辻く旧通信道の点検巡視に行つて下さる。



発電機を運ぶ 夫婦で運び上げ・佐田ノ辻 間伐材の皮剥ぎ
 畑林・大江さんは、宿内の整理・清掃。台所に鼠以外の動物の糞があり、鍋類など洗って下さり、児嶋氏が発電機調整運転の間に掃除機で宿内掃除。

濱野・山川夫妻・上村夫妻は、水場径の点検と水汲み及び山川さんは水場へ縄の支点ボルト設置に降りられる。

沖崎・川島・竹中氏は、薪運搬と佐田ノ辻の間伐杉材の皮剥ぎ・積み直し作業及び各雨水槽に栓をして雨水が貯留できる様にす。水場班が戻り、皮剥ぎを手伝って下さるが、一番下の材は凍っていて皮が剥ぎ難い。積み直し作業も一段落し、11時30過ぎから昼食と自己紹介を行う。銘菓・天の川の差入れもある。



一般登山者も加わり賑やかに昼食・懇談

昨夜宿泊して、俱利伽羅岳を往復して戻った登山者も加わる。

1月下旬に浦向道(旧通信道)を点検巡視したが、2月中旬に大雪が降り雪の重みでモノレールに倒木が遭った事から、再度点検巡視する必要がある。又、林道下の浦向道で跨いで通る杉倒木の切除及び林道法面拡張に伴い発生した間伐材(元下北山村・上平村長所有)は、ご好意により寄贈して下さい、林道路側帯に放置していたので間伐材運搬作業のため、濱野・山川夫妻・上村夫妻が、12時35分に先行し点検巡視に出発。

児嶋・川島・生熊・竹中氏は、モノレール傍の倒木処理と児嶋車(1トトラック)で寄贈間伐材運搬の為、13時に行仙宿を出発。沖崎・大江・畑林さんは、笠捨山点検巡視班が戻る迄、行仙宿で待機することになった。



浦向道点検巡視班

毛布を巻いて保管後掃除

モノレール傍の処理班

モノレール終点より約30m下った地点の倒木母材は、新たに枝を鋸で切除する。又、立ち枯杉材を切除し倒すと共にモノレール沿いの切り枝等を取除いた。

モノレールをM機駐車場に戻し、児嶋車で浦向道と交差する林道に置かれている寄贈間伐材の回収運搬に向う。

林道は、落石が多く取除きながら辿る。浦向道と交差する約50m手前に間伐材が置かれていた。浦向道点検巡視班が先着し、

皮を剥いておられる。道は小倒木を1本切除以外支障無しとの事。



モノレール傍の梅の枝切除 間伐材運搬トラック 寄贈間伐材の皮剥ぎ

山川・川島・濱野・竹中氏が林道下の浦向道の杉倒木切除へ。山川氏のチェンソーは手入れされているので簡単に切除出来た。間伐材置場に戻る。寄贈間伐材(長さ4~5m)は、9本ありトラック荷台に積み込むには重いので7本をチェンソーで半分の小切る。太く重い材は3人で積み込み、2回に分けて運搬することにした。

1回目の運搬回収時に山川車を回送するため、一緒に登山口に戻り転回場に間伐材を積み降ろす。



転回場に間伐材積降し 児嶋車に1本積み込み 笠捨山点検班下山

2回目の運搬に行き、全員登山口に戻ると、大江・畑林さんは沖崎氏を残し、行仙宿14時に下山したので登山口に到着されていた。

児嶋氏は、間伐材1本を持帰り利用することと、トラックに積む。

児嶋車には、ソーラー発電が設置されているので、コーヒープットで湯を沸かして児嶋喫茶の開店で、自作チョコナッツとコーヒーを振舞って頂いた。

沖崎氏と笠捨山点検巡視班を待つだけとなり、熊野・尾鷲市組の山川車は15時半前に下山帰宅。

程なく沖崎氏よりメール着信があり、行仙宿を出立した様だ。

16時10分沖崎・笠捨山点検巡視班3名が登山口に無事戻る。

瀧本氏より「笠捨山直下の登山道は凍っていて登るのに難儀した。倒木はチェンソーで1本切除。旧通信道の捲き道は、2箇所崩れた所があるが良く整備されていた」と報告がある。

瀧本班は、コーヒーをご馳走になった後、少し休憩との事から新宮班は16時20分帰宅する。

行動タイム

新宮7:30↓9:00登山口9:15↓9:40モノレール終点↓9:50第二ベンチ↓10:15行仙宿↓(笠捨山巡視班10:20出発)・作業↓11:35昼食↓浦向点検班出発12:35。モノレール傍の点検班出発13:00↓13:45登山口13:50↓間伐材回収運搬(2回往復)15:10↓熊野・尾鷲市班下山・15:25↓(笠捨山点検班:行仙宿15:30→16:10登山口)登山口16:20→17:55新宮。

(記:川島)